**啓林館　高等学校 考える物理基礎（物基706）観点一覧**

(1)内容の取り扱い

・基本概念や法則などの物理の系統性が重視された教科書であり，必要な用語や内容，項目がもれなく掲載されている。

・「物理基礎」で必要とされる内容とともに，「物理」の範囲に含まれる内容についても「発展」により適宜とり扱われている。例えば高校物理の学習の基礎となる力学分野では,平面内の速度の合成，放物運動などが「発展」で扱われており，「物理」へとスムーズに移行できる。

・前見返しでは「CHALLENGES×PHYSICS」というテーマで，くらしに関わる科学技術が視覚的にとり扱われている。また，生徒の興味を喚起する「参考」が豊富に配置され，物理が身近なものであることが伝わりやすい教科書となっている。

・基本的な概念の形成が無理なくできるよう，本文中の必要な箇所に「実験」や比較的短時間でできる「やってみよう」が設けられ，体験的に学習できるようになっている。

・「探究」およびその前後の本文では，実践的な活動のほか，科学的な探究に必要な一連の探究の過程を具体的に記述し，紙面上で探究の各過程を追体験できるようになっている。

・節とびらや「考えてみよう」には，身近な例をもとに学習内容に対する問いかけがあり，公式などの導出や現象の図示を練習できる項目があるため，生徒が自ら考え，作業して理解することができる構成になっている。

(2)構成・分量

・内容が豊富なわりに，薄くコンパクトである。

・重要な公式や法則は枠で囲まれ，生徒の注意を喚起させる構成となっている。

・重要な関係式の導出がレイアウトを変えて記述されており，本文の流れが見通しやすい。

・問や例題が数多く掲載されており，学習内容の理解，定着に役立つ。また，例題には解法の「指針」が，さらに例題の後には類題が設けられており，理解の定着に役立つ。

・「なるほど」で生徒がつまずきやすい点が補足説明されており，学習内容の理解に役立つ。

・各部末の「力だめし」により，学習内容を確認することができる。

(3)表記・表現および指導上の便宜

・見開きの中に本文に関連する図・表・グラフがあり，授業中に何度もページをめくる必要がなく，授業の進行がスムーズになる。

・序章で「物理量の測定と扱い方」「探究活動の進め方」が説明されており，探究を進める際に参照できて便利である。

・物理に苦手意識のある生徒にも親しみやすい紙面となっている。また，矢印の色などについても，１冊を通して統一された色使いがされており，理解の助けとなるよう配慮されている。

(4)その他

・巻末資料に，「三角関数の練習」・「ベクトルの練習」という項目があり，物理基礎の学習の際に必要な数学的知識が無理なく身につくように配慮がなされている。